

第7回噴火湾ホタテガイ情報(2013年) 発行日：平成25年8月1日

発行：函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場、協力：胆振・渡島北部・渡島中部地区水産技術普及指導所

海底直上には平年並みに貧酸素水塊が発達しています(図1)。7月中下旬に南東風傾向が続いたため、表層水が胆振側に押し寄せられています(図2, 4)。この状況は、南東風傾向がおさまれば、回復すると見込まれますが、水温の急変等の環境変動が伴う可能性があります。分散作業時には、十分注意してください。津軽暖流水は順調に接岸・流入しています(図3)。

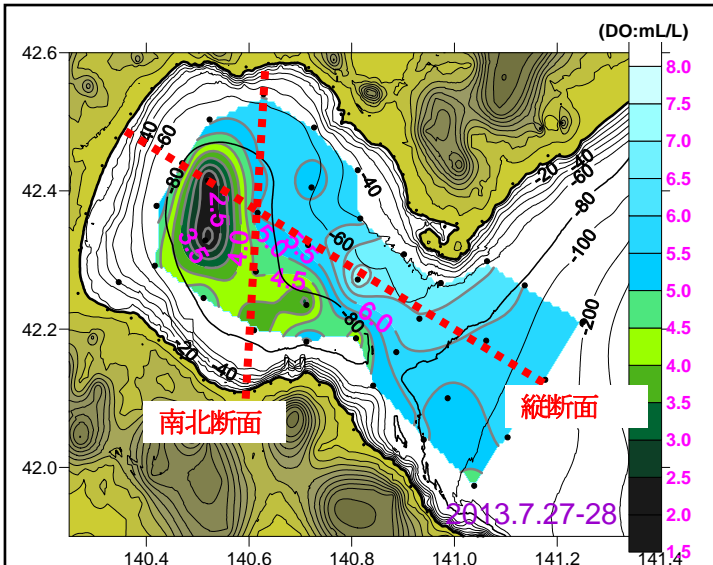


図1 海底上5mの溶存酸素濃 (2013年7月27-28日)

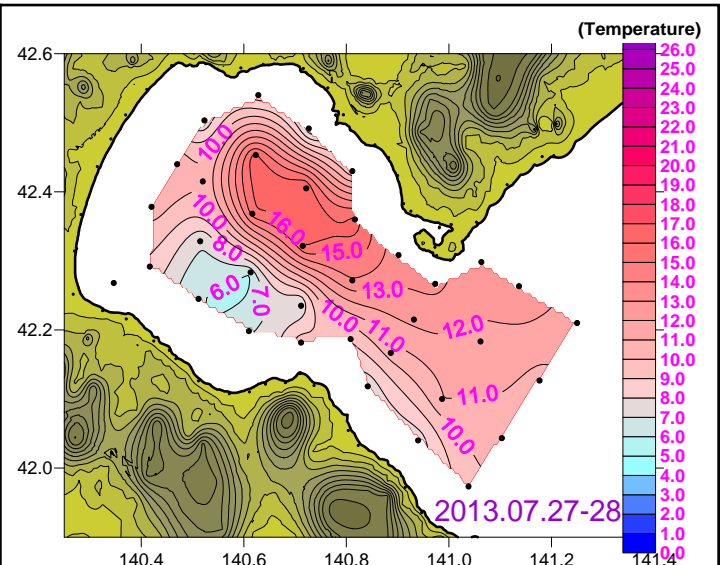


図2 深度40mの水温分布 (2013年7月27-28日)

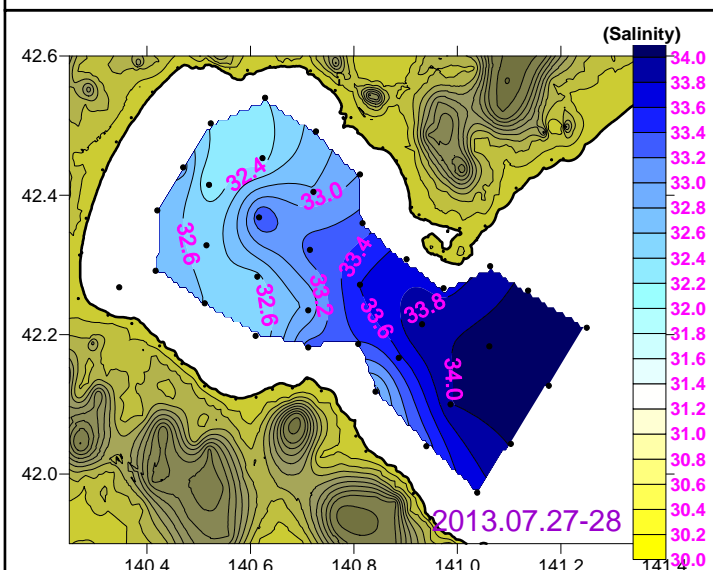


図3 深度40mの塩分分布 (2013年7月27-28日)

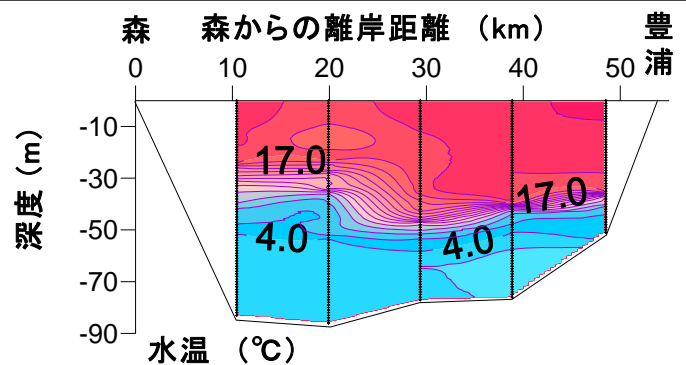


図4 南北断面(森-豊浦断面)の水温分布 (2013年7月27-28日)

【概要】 7月27～28日に、釧路水産試験場の試験調査船「北辰丸」により、噴火湾の海洋観測を行いました。海底直上には平年並みに貧酸素水塊が発達しています(図1)。7月中下旬に南東風傾向が続いたため、現在は、表層水が胆振側に押し寄せられた状態です(図2)。そのため、深度40mの水温が、落部沖では6.0°Cなのに対し、伊達沖では16°Cと実に10°Cも違います。水温17°C以上の水深帯は、落部沖で24m以浅、伊達沖で40m以浅です(図4)。表層水が胆振側に寄せられているため、通常は胆振側から流入する高塩分の津軽暖流水は、現在は湾中央から流入しています(図3)。今後、南東風がおさまれば、表層水等の状況は回復すると考えられますが、水温の急変等の環境の急激な変化が伴う可能性があります分散作業時には、十分注意してください。

噴火湾の環境については、「噴火湾環境速報」にも解説しています。こちらも、参考にしてください。次回の海洋観測は、9月9日の週に、函館水試試験調査船「金星丸」で実施する予定です。

(連絡先：函館水産試験場 馬場・金森・佐藤 TEL:0138-57-6074)

この情報は函館水試のホームページからもご覧いただけます。<http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hakodate/>

【環境情報】

湾内では、深度 50~60m で水温が急激に低下しており、湾内深所の水温は 6.0~3.0℃と湾外よりも低い状況です（図 5①）。湾中央部深度 40m から高塩分の津軽暖流水が流入しています（図 5②）。津軽暖流水の流入が遅く稚貝が大量へい死した 2009 年の状況とは大きく異なっているため、このまま推移すれば、今年の稚貝のへい死リスクは低くなると期待されます。湾内最深部付近には溶存酸素が 3.0mL/L 以下の貧酸素水塊が発達していますが、規模は平年並みと考えられます。

最深地点 (st. 34) の水温は、表層から深度 35m で高く 16.3~18.3℃、深度 35~41m にかけて 16.3℃から 8.3℃に急激に低下しています（図 6）。溶存酸素濃度は深度 75m 以深で急激に低下しており、深度 75m では 5.5mL/L で、深度 93m では 1.85mL/L になっています。

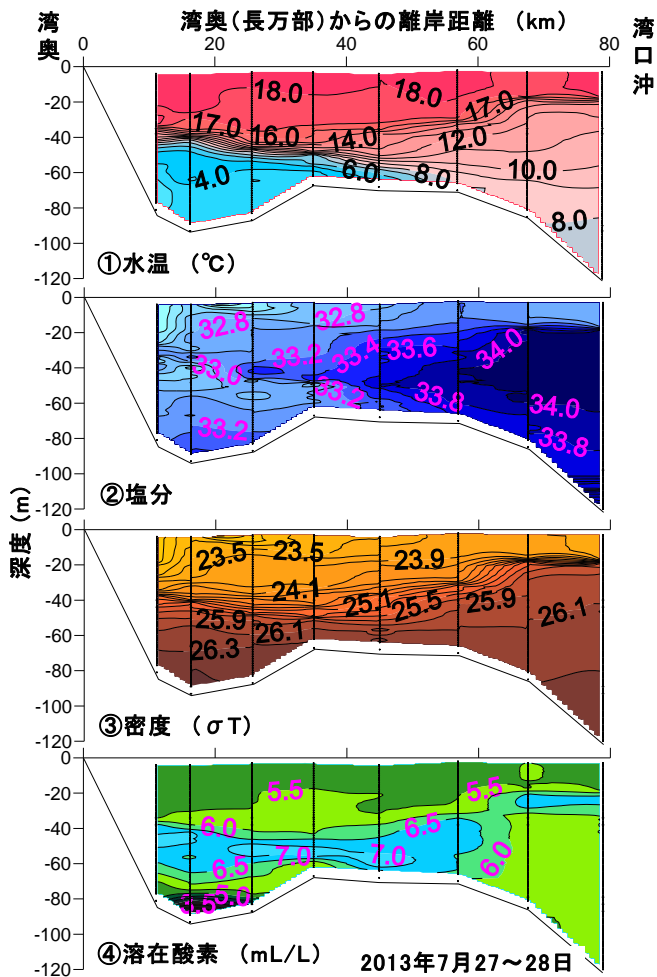


図 5 噴火湾縦断面の環境変量分布 (2013年7月27~28日)

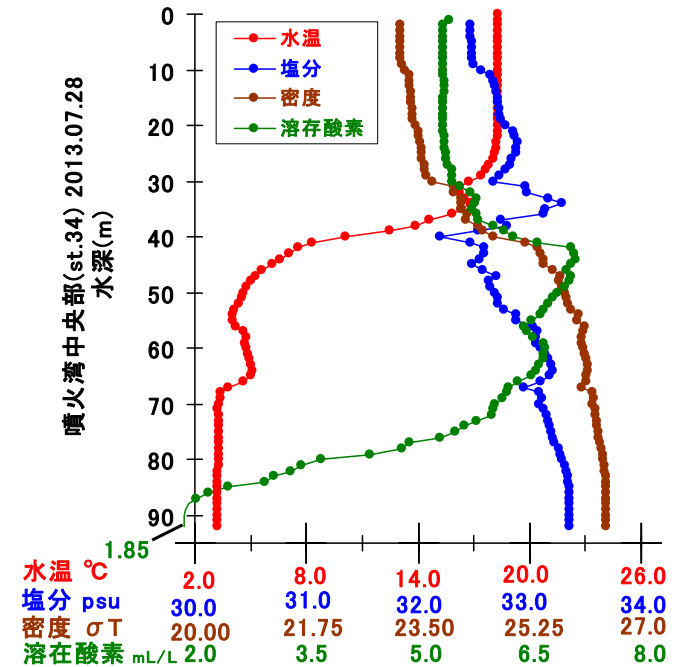


図 6 最深地点 (st. 34) における水温・塩分・密度・溶存酸素の鉛直分布 (2013年7月28日)